

## 流れに乗りきれないまま終わったオートポリスラウンド この経験、データを今後活かすことを誓う

全日本選手権フォーミュラ・ニッポン第2戦 オートポリス(4.674km)

2011年よりLe Beausset Motorsportsは、新たに国内トップカテゴリーの全日本選手権フォーミュラ・ニッポンに挑むこととなった。その第2戦が6月4日(土)、5日(日)の両日、大分県・オートポリスで開催された。

擁するドライバーは、昨年まで全日本F3選手権とともに戦っていた嵯峨宏紀。昨年の最終ラウンドで、初優勝のみならず連勝を成し遂げ、有終の美を飾ったことによって、チームともども満を持してのステップアップとなった。シャシーこそワンメイクながら、エンジン選択が許されるカテゴリーにおいて、トヨタRV8Kを搭載しての参戦となる。

鈴鹿サーキットで開催された開幕戦で、嵯峨はコンスタントに走り続けて完走に成功。惜しくも入賞は果たせなかったものの、貴重なデータを積み重ねることに成功した。なお、オートポリスはF3で優勝を遂げた、まだビクトリーランの記憶も残るサーキットでもある。



### 予選

6月4日(土) 天候/コース状況: 晴れ/ドライ

午前中のフリー走行を経て、午後1時50分からスタートする予選に挑むこととなった。今回もその予選はノックアウト方式。20分間のQ1に、コースオープンと同時に嵯峨はピットを離れていった。

最初のアタックから1分35秒710をマークし、いきなりこのレースウィークの最速タイムを記す。フリー走行でトラブルから満足な周回を重ねられなかったため、その後も走行し続けたものの、タイムは上がっていない。バンピーでタイヤの接地が継続しにくい路面であるだけに、アタックのチャンスは一度きりということが明らかになった。

そこでセッションの折り返しでいったんピットに戻し、セッティングの微調整を施すとともに、再びニュータイヤを装着する。残り6分となったところで、再びコースイン。貴重なワンチャンスに集中力を高め、果敢にコースを攻め込んで1分34秒863をマークし、自己ベストを更新することになった。

残念ながらQ2進出はならなかったものの、誰より多く周回を重ねたことで決勝レースに向けて進むべき方向性は、より明確に。その決勝レースには8列目、16番グリッドから挑むことになった。



### 決勝

6月5日(日) 天候/コース状況: 雨のち曇り/ウエット/ドライ

決勝レースが行われる日曜日は、朝からあいにくの雨模様。そのため、メカニックたちは急きょウエットセットへの変更を余儀なくされる。このレースウィーク、ドライでの十分な走り込みができていないこともあって、コンディションの変化は雨を得意とする嵯峨にとって、福音となるかとさえ思われた。

しかし、午前9時から行われた決勝を見据えたフリー走行において、ピットを離れ3速に入れた直後にコントロールを失いスピン、イン側のウォールにマシンをヒットさせてしまう。

決勝レースのスタート進行まで約4時間。メカニックたちが必死に修復を行い、スターティンググリッドに並べることができなかったものの、ピットスタートには成功。まだ路面は濡れていたが、すでに雨はやんでいたので速やかな回復を予想、スリックタイヤを装着してコースに送り出す。

実際、スタートから3周もすると全車がレインタイヤからスリックタイヤに交換し、ラップタイムでも上回ったから狙いは的中していたことになる。しかし、その戦いに嵯峨は加わることを許されなかった。ピットを離れて間もなく1コーナーの先でコースアウトし、再始動できず無念のリタイヤを喫してしまった。

ピットに戻ると、すぐスタッフ全員に頭を下げた嵯峨。誰より悔しい思いをしているだろうが、いつまでも引きずることは許されない。次回のレースは7月16~17日、富士スピードウェイで開催される。ここでの悔しさを糧に、チーム・ドライバーとも次への成長へと挑んで行く。



Driver  
嵯峨宏紀  
Koki SAGA  
COMMENT

何も言うことはありません……。せっかく一生懸命クルマを直してもらって、レースに間に合わせてもらったのに。スリックタイヤを履いて出て行ったんですが、全然曲がらなくて。1コーナーの先でコースアウトしてしまいました。今週はいろいろあり過ぎました。なんとしても気持ちリセットして、次に挑みます

チーム監督  
坪松唯夫  
Tadao TSUBOMATSU  
COMMENT

初日のマシントラブル、フリー走行でのクラッシュと決勝に向けて全てが悪い方向へ進んでしまった。決勝でのピットスタートは、2周分の燃料をセーブし間違いない1ストップ作戦を成功させる為にも得策と考えた。スリックタイヤでコースインしたことは戦略的に間違い無かったがその作戦を機能させるためには、より注意しなければならなかった。

順位	車番	ドライバー	チーム	予選順位	
1	37	中嶋一貴	PETRONAS TEAM TOM'S	13	
2	7	大嶋和也	Team LeMans	2	
3	41	塚越広大	DOCOMO TEAM DANDELION	1	
4	1	J・P・オリベイラ	TEAM IMPUL	4	
5	16	山本尚貴	Team 無限	6	
6	40	伊沢拓也	DOCOMO TEAM DANDELION	9	
7	18	A・インベトリー	SGC by KCMG	12	
8	2	平手晃平	TEAM IMPUL	8	
9	10	小林崇志	HP REAL RACING	15	
10	8	石浦宏明	Team KYGNUS SUNOCO	5	
11	33	国本雄資	Project μ / cerumo・INGING	11	
12	36	井口卓人	PETRONAS TEAM TOM'S	7	
		リタイヤ62	嵯峨宏紀	Le Beausset Motorsports	16

